

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	城東区
学 校 名	大阪市立今福小学校
学校長名	柳井 友裕

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育局では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育局の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・大阪市立今福小学校では、第6学年 24名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

【国語】国語の平均正答率は62.0 p で、大阪市を3 p、全国を4.8 p 下回る結果になった。無回答率は2.4 p で大阪市と比べて0.4 p、全国と比べて0.9 p 下回っている。

【算数】算数の平均正答率は61.0 p で大阪市と全国を3.0 p 上回っている。無回答率は1.6 p で大阪市と比べて1.7 p、全国と比べて2.0 p 下回っている。

【理科】理科の平均正答率は56.0 p で、大阪市を1 p 上回っているが、全国と比べると1.1 p 下回る結果になった。無回答率は2.2 p で大阪市と比べて0.8 p、全国と比べて0.6 p 下回っている。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

【国語】

領域別では「書くこと」の内容に一番課題が見られた。目的や意図に応じて簡単に書いたりくわしく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がある。文章を書く目的や意図に応じて伝えたいことを明確にできるようにすることが大切だと考える。

【算数】

領域別では昨年度課題のあった「数と計算」の内容については、正答率がよくなってきたが、今年度は「データの活用」の内容に一番課題が見られた。目的に応じて適切なグラフを選択してデータの特徴や傾向を捉えて判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することに課題がある。記述式の問題では無解答率も高くなっているため、考えを分かりやすく他者に伝えることができるようにする必要がある。

【理科】

領域別では「エネルギー」を柱とする領域の内容に課題が見られた。実験の方法を発想し、表現することに課題が見られた。児童が学んだことの意義を実感できるような学習計画が必要である。理科でも記述式の問題で正答率が低かった。考えた過程が分かるように表現する活動を通して、自分の考えを適切に表現できるようにする必要がある。

質問調査より

「自分にはよいところがあると思いますか」「学校へ行くのは楽しいですか」では、肯定的に回答した割合は90%を超えており、全国や大阪市と比べて高い。引き続き児童の良いところをほめて伸ばし、達成感や自己有用感をもつことができるような取り組みを継続していく。「読書は好きですか」では、79.2%の児童が肯定的に答えており、昨年度よりも大幅に高くなっている。学校司書による読み聞かせ、地域ボランティアによる図書館開放や委員会活動での読書推進の取り組みなど、低学年から本に親しむ児童を育ててきた成果といえる。「学級の児童との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」では、87.5%の児童が肯定的に答えている。どの教科でも授業で話し合いの時間を取り入れている成果であると考えられる。

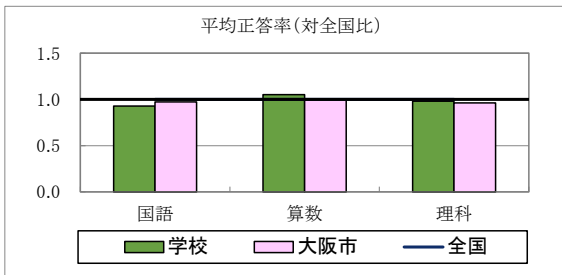
今後の取組(アクションプラン)

【国語】 【算数】 【理科】ともに「記述式」の問題に課題があった。今年度は話し合い活動を通して自ら表現する児童の育成に努め、どの教科においてもペアやグループで伝え合う活動は授業の中で取り入れるようにしている。今後はさらに話し合う前の自分の考えをもつ時間をしっかり確保し、目的や意図に応じて伝えたいことが伝わるように「書く」活動も大切にしていきたい。書き表し方も工夫していきたい。また、基礎基本的な学習の取り組みも継続していく。今年度も漢字検定にチャレンジし、自分の目標に向かって意欲をもって取り組むことができるようにしていきたい。読書活動については、読み聞かせや読書週間の取り組みは継続し、電子図書サービスの継続活用と学級文庫を充実させることで、本に触れる機会をさらに増やしていきたい。

【 全体の概要 】

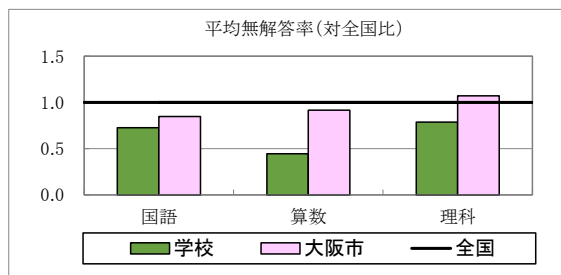
平均正答率（％）

	国語	算数	理科
学校	62	61	56
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1



平均無解答率（％）

	国語	算数	理科
学校	2.4	1.6	2.2
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8



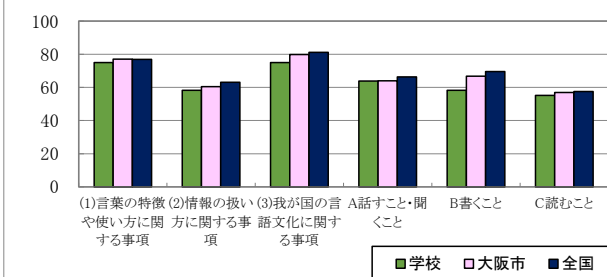
【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	2	75.0	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に 関する事項	1	58.3	60.4	63.1
(3)我が国の言語文 化に関する事項	1	75.0	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	63.9	64.0	66.3
B 書くこと	3	58.3	66.7	69.5
C 読むこと	4	55.2	56.9	57.5

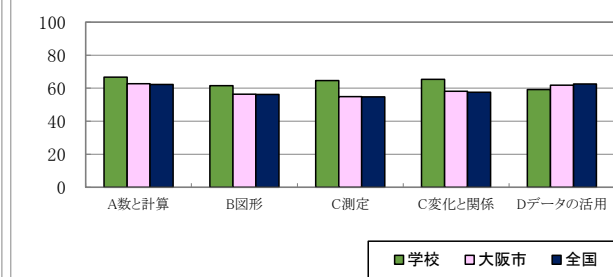
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	66.7	62.7	62.3
B 図形	4	61.5	56.4	56.2
C 測定	2	64.6	54.9	54.8
C 変化と関係	3	65.3	58.2	57.5
D データの活用	5	59.2	61.9	62.6

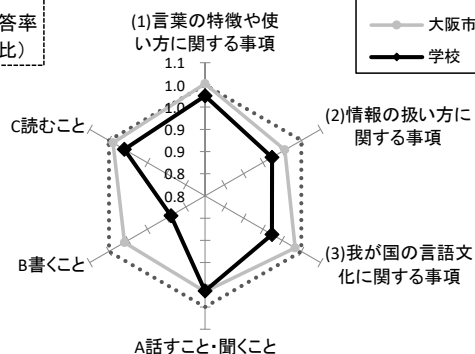
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



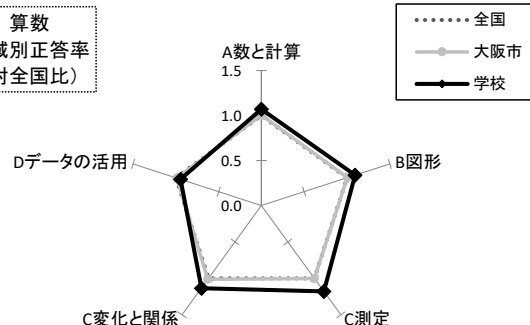
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語
内容別正答率
(対全国比)

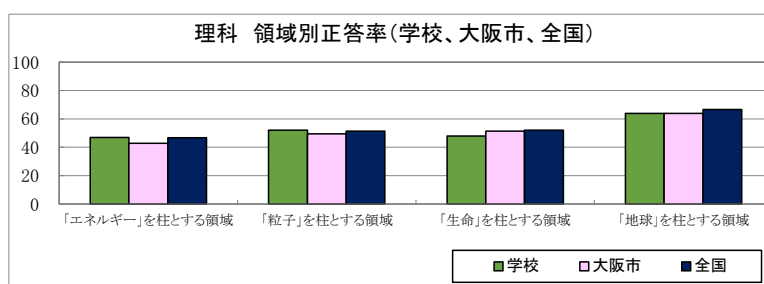


算数
領域別正答率
(対全国比)

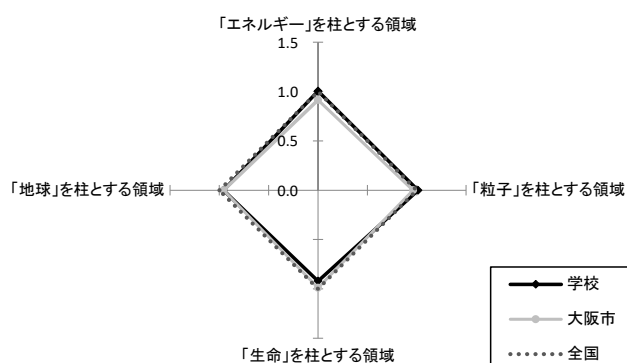


【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 区分 「エネルギー」を 柱とする領域	4	46.9	42.7	46.7
	6	52.1	49.5	51.4
B 区分 「生命」を 柱とする領域	4	47.9	51.4	52.0
	6	63.9	63.8	66.7



理科 領域別正答率(対全国比)



児童質問より

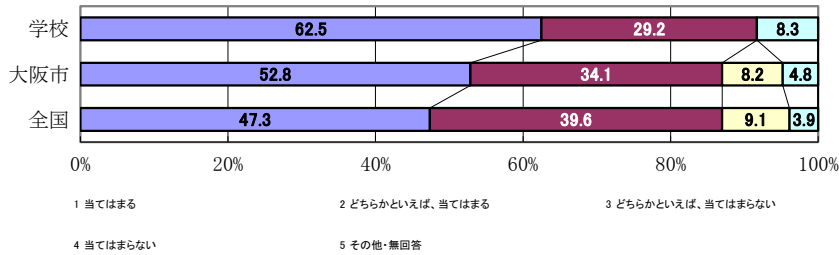
質問番号

質問事項

5

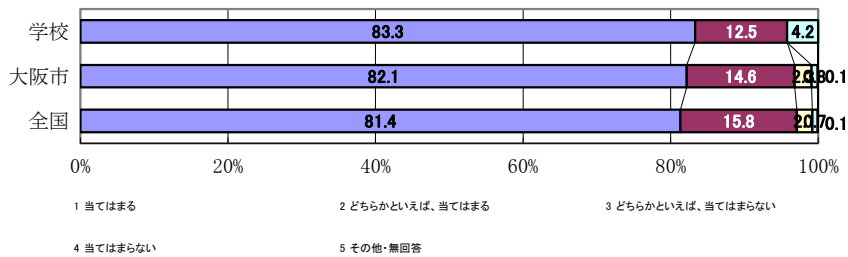
自分には、よいところがあると思いますか

1 2 3 4 5 6 7 8



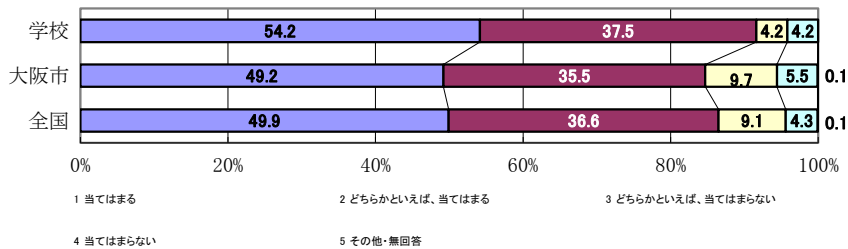
9

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



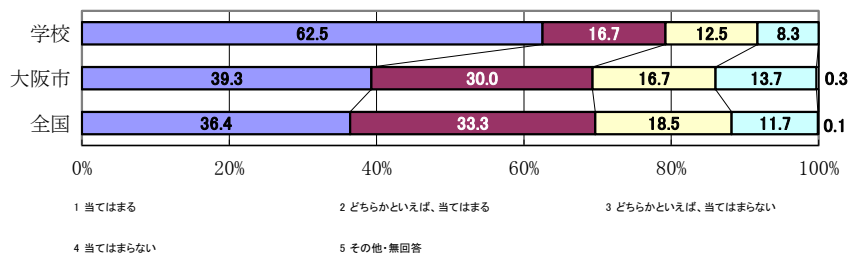
12

学校に行くのは楽しいと思いますか



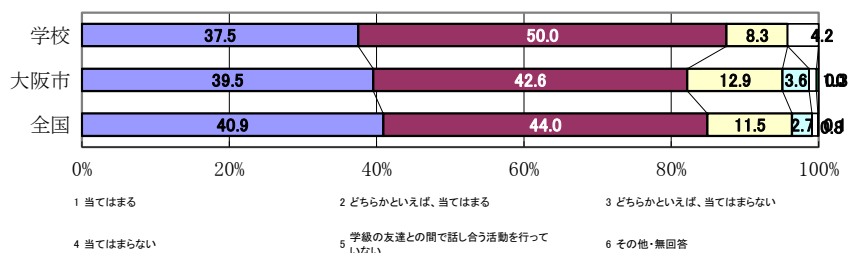
24

読書は好きですか



35

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



学校質問より

質問番号

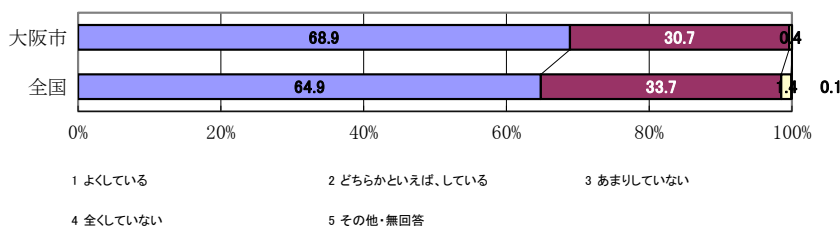
質問事項

18

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

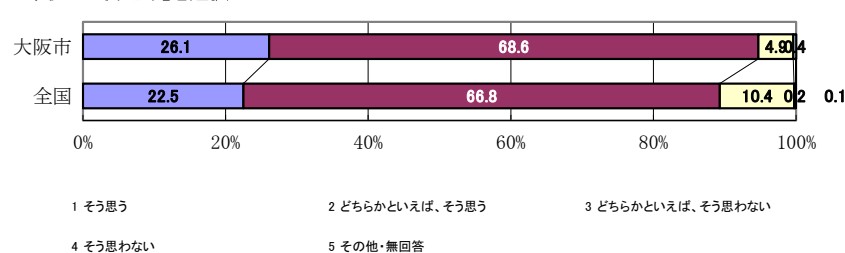
学校 「どちらかといえば、している」を選択



25

調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

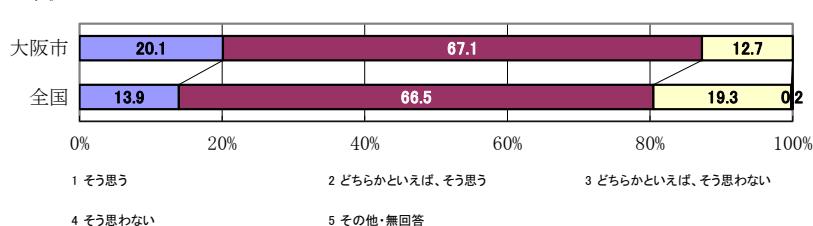
学校 「そう思う」を選択



26

調査対象学年の児童は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか

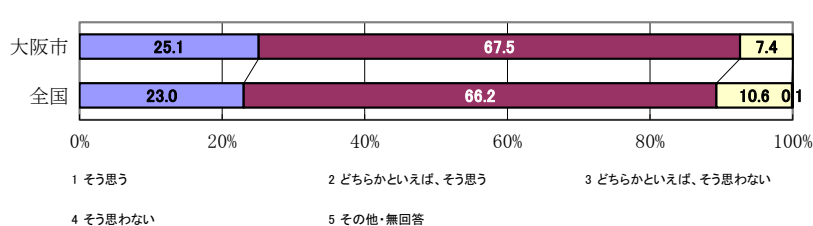
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



27

調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか

学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



28

調査対象学年の児童は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると思いますか

学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択

